

『ガレキとラジオ』再上映の準備について

私たちは、映画『ガレキとラジオ』の再上映に向けて、一歩踏み出すことにしました。

このたびは、映画『ガレキとラジオ』の件で、大変お騒がせし、誠に申し訳ございませんでした。上映会主催者の皆様や劇場の方々には大変なご迷惑をおかけしてしまいました。改めて心よりお詫び申し上げます。

そもそも、本映画の出発点は、東日本大震災後に両監督から「南三陸町の町民の方々を対象に、観た人が逆に勇気づけられるような映画を撮りたい。それを長く広めることで、震災風化の防止に微力ながら尽くしたい。無報酬でいい。」との企画提案でした。その想いに賛同し、映画に利益が出たならば南三陸町に還元しようという考えで動きはじめ、東北を応援する多くの尊い力をお借りしながら、一つの映画となりました。

小さな映画ですが、劇場での公開後は「震災を風化させてはならない」という想いを持った方々から自主上映会の申し込みを頂き、やがて少しずつ拡がりはじめました。各主催者様の上映会を通じて「復興支援につなげたい」という熱い想いも本物でかけがえのないものでした。映画を通じて、寄付だけでなく、映画を機に被災地を訪れた方、新たな支援アクションを起された方、さまざまな広がりや連携が生まれ始めていました。

3月5日、新聞より本作にやらせがあり、そのことで出演者の被災者女性が大変苦しんでいるとの報道がされました。不本意なことを強いられて、出演女性が傷つけられてしまったならば、それは明らかに本作の意義も、演出の範囲も逸脱していると考え、製作者としてただちに謝罪すべきだと判断し、謝罪を行いました。また、出演女性は映画が広がることでさらなる苦しみを負われていると記事にありましたので、続いて上映会主催者の皆様に、上映中止をお願い致しました。

引き続き、上映会を行われた主催者様には、被災者女性への配慮を最大限お願いし、自分自身も参加可能な上映会には極力参加し、お客様に直接説明をさせていただきました。最終的には3月30日に全ての上映が終了し、現在、上映受付は行っておりません。

一方、出演女性が記事に対して抗議の声をあげられ、今回の報道の流れで上映会が中止された事を大変悲しまれているということを知りました。このことについては、自ら確かめるべきだと考え、ご本人にお会いさせて頂きました。そして、記事の内容が真意とは違うこと、映画を通じ娘と孫の事を多くの人に知ってもらえる事がありがたかったこと、映画を大事に思っ下さり、映画の再上映を何より望んでいることなどが分かりました。「や

らせでは絶対ない」と何度も言われ、記事を否定されていました。「被災者支援を目的とした映画が被災者を傷つけていたのかもしれない」という、最も懸念していた点が解消され、大変安堵しました。また出演女性の真意と事実を鑑みた上で、過剰演出と言いつられ、映画全てを否定されてしまうことへの悔しい思いが強まりました。

その後、この映画に中心となってご出演くださったFMみなさんの元スタッフの4名の方々からは「心底、被災地を思って撮られた作品で、このまま終わっていいものではない。絶望の果ての果てに、希望を見いだそうと必死だったわれわれのあの思いまで奪わないでほしい」と、再上映を求める声明を頂きました。この映画を観てくださり、応援してくださった全国の皆様からは、「このまま上映中止にしてはならない」という励ましの声も頂戴しました。

こうして、出演者を始めとした南三陸町の方々や「復興支援につなげたい」という多くの方々の尊い力をお借りしたこの映画を、ここで終わらせていいのかという思いが強まってきました。一方で、今回の一連の報道を受けて様々な方々から厳しいご意見を頂いたのも事実です。ご指摘を頂いた部分は真摯に受け止めながら、改めてこの映画が私たちの東北復興支援への想いに沿い、作品を送り出す側も、出演された方々も、映画を観る方々も、誰からも応援して頂ける映画になることを前提として、再上映の可能性とその新しい内容について慎重に検討に入りたいと思っています。

この映画を大きな気持ちで愛し続けてくださり、ご心配をおかけしてしまった役所広司さんにも説明を行い、「東北支援の原点に戻り、新たな映画『ガレキとラジオ』に生まれ変わるよう頑張りましょう。」という言葉を頂きました。

現時点では必ずしも映画の再公開を約束できるものではございませんが、それが果たせるならば、「映画で東北を知る支援」の活動を地道に積み重ね、微力ながら東北、南三陸町に還元していきたいと考えております。映画『ガレキとラジオ』が再上映に向けて一歩踏み出す事を決意しましたことを、ご理解頂けますよう、なにとぞよろしくお願い申し上げます。進展がございましたら、改めて報告させていただきます。

2014年5月1日

映画『ガレキとラジオ』

エグゼクティブプロデューサー

山国秀幸